

学長プロジェクト2 「CSR研究と普及啓発」 活動報告

学長プロジェクト2
【報告者】
橋本 隆子

目次

1. 学長プロジェクト2とは
2. メンバー
3. 成果報告
 - 2-A : 環境社会配慮の研究
 - 2-B : 環境や社会を考慮した University Ranking
 - 2-C : エシカル消費の推進
4. 学会・展示会など
5. 書籍計画
6. 活動における課題
7. 今後の展開

付録：
USR 指標案
みずほ祭アンケートの結果抜粋（商大学生）

学長プロジェクト2 「CSR研究と普及啓発」



SDGsに基づき、ESGに配慮した真に必要とされるSR (社会的責任、大学ではUSR) の研究、教育、実践



環境・社会に配慮した広義のアセスメント研究・ESG投資

社会的責任の視点からの新しい大学評価指標の開発

エシカル消費（倫理的消費）の啓蒙、教育、グッズの開発

メンバー（2020年12月時点）

リーダー	橋本 隆子	副学長・教授（商経学部）
サブリーダー	伊藤 宏一	教授（人間社会学部）
サブリーダー	今井 重男	学部長・教授（サービス創造学部）
メンバー	原科 幸彦	学長
〃	安藤 崇	准教授（商経学部）
〃	太田 三郎	名誉教授
〃	大平 修司	教授（商経学部）
〃	奥寺 葵	准教授（商経学部）
〃	後藤 啓	専任講師（商経学部）
〃	齊藤 紀子	准教授（人間社会学部）
〃	杉本 卓也	准教授（政策情報学部）
〃	滝澤 淳浩	准教授（サービス創造学部）
〃	田原 慎二	専任講師（商経学部）
〃	松崎 朱芳	専任講師（商経学部）
〃	森 久人	教授（商経学部）

メンバー	山田 武	教授（国際教養学部）
〃	三橋 規宏	名誉教授
〃	内田 茂男	理事長
アドバイザー	笹谷 秀光	教授（基盤教育機構）

2-A : 「環境社会配慮の研究」の成果

**【目的】 CSR新時代としてSR理念の再整理とその将来展望
ESG投資の社会への普及及び、その課題と解決方法の探索**

学会、メディア、地域の方々とのパートナーシップ

- 各種学会・シンポジウムでの研究発表
- 中小企業向けSDGsセミナーを日刊工業新聞と開催
- ESG投資で学生の給付型奨学金原資形成
- SDGsの講義開発「サステナブルな暮らしを考える」(2018年秋)



- 環境社会に配慮したSRの概念を提案
- ESG投資推進、SDGsにおけるCUCのブランディング
- 学内のSDGs 認知度の向上にも貢献

SDGsと企業活動、投融資に関する研究

- 「SDGsと企業活動」（第9回公開講座、2018年3月）
 - SDGsが企業活動に与える影響
- 「Social indicators on SDGs for industry and university」（IAIA 2019、2019年5月）
 - CSRやSDGsに対する世界的動向
 - CSRを企業活動に組み込む方法
- 「SDGs達成に向けた企業活動を促進する金融機関の役割」（日本地域学会、2019年9月）
 - 非財務データで企業価値を測る
- 「SDGsと国際協力における投融資」（日本計画行政全国大会、2020年11月）
 - 持続可能なファイナンス、専門家育成、ポジティブインパクト評価、気候変動リスク分析などが重要



2-B : 「環境や社会を考慮した University Ranking」の成果

【目的】 USRの再定義とSDGsを考慮した新たな大学指標の開発

学生とともにUSRを考える

- 競合調査（私大USR研究会、Green Metric by UI、THE）
- 自己点検 ⇨ 自己評価 ⇨ 指標開発
- 各種学会・シンポジウム・展示会等で積極的に発表
- 瑞穂祭でのSDGsに関する調査を実施（2018、2019年）

- コミュニティ、ステイクホルダー、環境配慮といった観点から、USRを再定義
- 学内のSDGs 認知度の向上・SDGsに関連する情報収集にも貢献



USR指標の開発と教育上の成果

＜研究上の成果＞ – 新たな指標の開発に向けて

- USR活動評価・改善のための自己チェックシートを作成 ⇨ 他大学へも展開可能
- 大学のサステナビリティ経営が求められる時代
 - 先進的な大学評価プログラムの指標サーベイ
 - サステナビリティをカリキュラムに組み混む国際的動向
- 商大の研究活動内容を内外に情報発信



＜教育上の成果＞ – 学生を積極的に巻き込んだ活動

- 学生たちがSDGsやUSRについての理解を深化 ⇨ 当事者意識を醸成
- 学部や専門分野を超えた活動 ⇨ 合同ゼミ
- 数多くの発表経験 ⇨ 展示会（エコメッセなど）やCUC公開講座

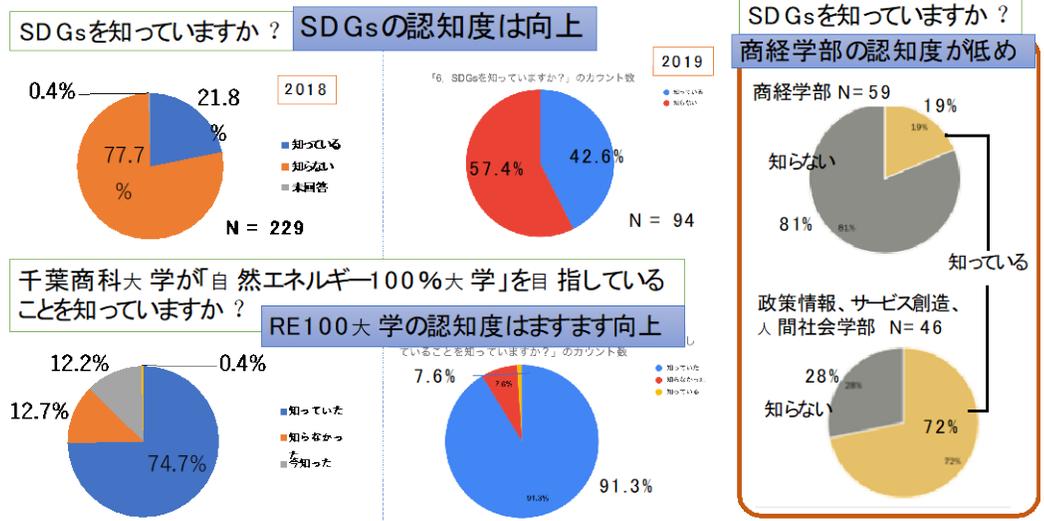
USR指標案

中核課題	マテリアリティ	KPI		他大学が回答/自己評価するための真向案 (※評価対象は、原則として直近の前年度)
		定量データ	定性データ	
地域社会との繋がり	施設開放 (学生食堂・図書館など)	利用人数 (延べ人数)	施設の利用目的	・開放施設利用人数 (延べ人数) と前年度比
	学生による社会活動 (ボランティア等)	ボランティアや活動型ALへの参加人数 (延べ人数)	ボランティアや活動型ALの活動内容	・学生が参加する社会活動 (ボランティア等) への参加学生の人数 (延べ人数) と前年度比 ・その活動内容はSDGsの17ゴールの内、どのゴールに貢献しているか。
	社会 (学校・行政・企業) との協働 (イベント共催・地元名物の共同開発など) 外部NPO/NGOからのインブット (専門家招聘など)	協働プロジェクト数	協働プロジェクトの内容	・行政・企業・NPO等との協働によるイベントやプロジェクト (オンライン/リアル) が何件あるか。 ・その内容はSDGsの17ゴールの内、どのゴールに貢献しているか。
	教育機会の提供 (公開講座・出前授業など)	公開講座/イベント (オンライン/リアル) への参加者数 (延べ人数)	講座/イベント (オンライン/リアル) の内容	・公開講座やリカレント教育 (オンライン/リアル) への参加者数 (延べ人数) と前年度比 ・それら講座内容はSDGsの17ゴールの内、どのゴールに貢献しているか。
環境問題への取り組み	ゴミのリサイクルの実施、分別回収 (2016年度5万3千kgから減量)	廃棄量/リサイクル量	意識啓発の実施	・廃棄物の廃棄量/年 (分別回収の有無やリサイクル量) ・キャンパスが複数箇所の場合は、キャンパス毎や総計
	エネルギー (電気・ガス) の使用量の削減	使用量 (の推移)	意識啓発の実施	・年間エネルギー使用量 (電気、ガス、再エネ率)
	水の無駄使いの削減	使用量 (の推移)	意識啓発の実施	・年間水使用量 (上水や中水の使用状況、井戸・地下水を利用している場合は、その使用状況)
	教職員と学生の連携 (環境情報の見える化、情報共有、意識の醸成)	連携の取組みの実施数 学生生活調査等での認知状況	掲示板やwebサイトでの公表内容	・教職員や学生が知る機会はあるか? (入学前・後) ・実施している連携の取組みの内容は?

中核課題	マテリアリティ	KPI		他大学が回答/自己評価するための真向案 (※評価対象は、原則として直近の前年度)
		定量データ	定性データ	
教育	奨学金問題	大学独自の学生支援制度、社会的状況に応じた支援 (ルーター・パソコン貸出、通信費、生活費) の周知度、応募数、参加者数	学生満足度	・学生の「学び」を支援するための大学独自の制度があるか (周知方法、実績も) ・社会的状況に応じた学生支援制度があるか (周知方法、実績も)
	国際的人材育成 (留学・語学研修)	ダブルディグリー、学生交流イベント、留学生受入人数、語学研修制度の周知度、応募数、参加者数	学生満足度	・国際的人材育成のため、支援制度があるか。 ・当該支援制度の利用人数
	SDGsに関する研究プロジェクト	プロジェクト数 (活動期間、活動人数)	プロジェクト内容、成果 (知的・物的)	・学内にSDGsを研究する組織 (プロジェクト) があるか (プロジェクト数、活動期間、活動人数) ・当該組織 (プロジェクト) の役割は何か? ・学内・学外のSDGsの理解促進や浸透のために、活動しているか。
	教員や授業に関する改善、授業における重要課題	教員の多様性、ツールの多様性 (平均受講者数)、(ST比)、(出席・課題提出率)、(Complete率)、	教員の満足度 (ツール使いやすさ、サポート、授業のしやすさ)	・教員が授業運営しやすいように、また学生の理解度を高めるためのツールや取り組み
学生生活の改善 (消費者課題)	適切な学習環境 (オープンPC状況調査、提案)	(オンライン) 授業数、種類 (オンライン、AL、対面、ユニバーサル、受講方法の多様性)、	授業満足度 (オンライン/リアル)	・授業満足度 (オンライン、リアル) と前年度比 ・IT環境 (クラウド、学内LAN、オンライン講義用ツール) がどれくらい整備されているか
	適切な学生交流 (傾向、理由調査)	学生交流イベント数 参加者数	学生満足度 イベント内容	・(授業外) 学生交流イベント数、形態 (オンライン、リアル)、参加者数、課外活動満足度と前年度比
	キャンパス環境、施設などの改善 (学食状況調査、提案)	学食座席数 図書館他施設利用回数・人数	学生満足度 利用目的	・施設のオンライン化状況 (図書館他) ・施設の利用者数 (リアル、オンライン) と前年度比
	資格取得 (みずほ会、その他資格の体制調査、提案)	資格講座数 認知度	学生満足度 資格内容	・対象資格数、資格講座数と形態 (オンライン、リアル)、参加者数と前年度比、学生認知度
キャリアサポート (希望に叶う就職支援体制の評価)	キャリアイベント数 就職率	学生満足度	・キャリアイベント数と形態 (オンライン、リアル)、参加者数と前年度比、学生満足度、就職率	

詳細は付録参照

瑞穂祭アンケートの結果抜粋 (商大 学生)



Questionnaire Data

University Profile	PIC Profile
Username : cuc.ac.jp	PIC Name : Noriko SAITO
University Name : Chiba University of Commerce	PIC Position : Associate Professor, Faculty of Humanities and Social Sciences
University Leader : President Prof. Sachihiko HARASHINA	Email : saito@cuc.ac.jp

Submitted Date : 30 October 2020 08:32:24 (GMT +7)

Setting and Infrastructure		Answer
1.1)	Type of higher education institution	<input checked="" type="radio"/> Comprehensive <input type="radio"/> Specialized higher education institution
1.2)	Climate	<input type="radio"/> Tropical Wet <input type="radio"/> Tropical Wet and Dry <input type="radio"/> Semiarid <input type="radio"/> Arid <input type="radio"/> Mediterranean <input type="radio"/> Humid Subtropical <input checked="" type="radio"/> Marine west coast / Oceanic Climate <input type="radio"/> Humid Continental <input type="radio"/> Subarctic
1.3)	Number of campus site	2

2-C: 「エシカル消費の推進」の成果

【目的】 環境・社会に考慮した学内消費及び教育の推進

学生を巻き込んだエシカル消費活動・教育の推進

- 講義でのエシカル消費教育、学内でのフェアトレードイベント
- 学内外でのエシカル消費実践（エシカルカフェ）
- 地域貢献「低農薬米作り援農と高齢農家の耕作放棄問題を考える」
- UDでフェアトレード認証コーヒーなどの採用



- エシカルグッズの開発
- 学生団体CUC エシカルステューデントクラブを2020年9月に設立
- エシカル消費分野におけるCUCの認知度向上

講義でのエシカル消費教育や映画鑑賞会の実施。全国のフェアトレードタウン・大学や、海外の現場に視察訪問

- 映画「ザ・トゥルー・コスト」、書籍「はじめてのエシカル」
- 熊本市、名古屋市、浜松市、逗子市、静岡文化芸術大学、フィリピンセブ島

オープンキャンパスや学生プロジェクト活動で、学内外に学生カフェを出店。エシカル消費の啓発活動を実施

- フェアトレード製品やオーガニック製品を積極的に購入、販売
- 地産地消、フードロス、脱プラスチック製品の使用にも意識
- 学生や教職員、近隣住民へのはたらきかけ



「低農薬米作り援農と高齢農家の耕作放棄問題を考える」バスツアー(場所:新潟県柏崎市西山町別山)

- 低農薬使用のお米作り。田植え、草取り、稲刈り、はざかけ(天日干し)作業
- 学祭で活動報告、収穫したお米を来場者にプレゼント

エシカル消費の取り組み

- 学食「THE UNIVERSITY DINING」でフェアトレードコーヒーや紅茶の採用やフードロスを意識したレトルトカレーの開発販売、生ごみ再利用など
- オリジナルグッズの開発・販売(オーガニックタオル・マイボトル)



学会・展示会など

• 学会発表（15回+）

- 日本計画行政学会（2017、2018、2019、2020）、日本地域学会（2017、2018、2019）
- 日本FP学会（2018、2019）、生活経済学会（2018）
- IAIA Special Symposium アジア 2018、IAIA 2019、[AIC 2019](#)
- Trade and Sustainable Development-IV（2019）
- [国際ICT利用研究学会（2019）](#)

• 展示会（6回+）

- [エコメッセちば（2018、2019、2020）](#)、[エコプロ（2018、2019）](#)
- [Worn Wear College Tour in Japan（w/ パタゴニア、2019）](#)

• その他

- インドネシア大学 Green Metric チーム訪問
- UI Green Metric エントリー（2020）⇨ 314位／912大学



書籍計画

- **学長P.J.第1期の集大成**（2021年5月入稿、同年8月出版予定）
- 何を目的に、どのように活動し、どの程度それが達成できたのかを自己点検する。これを通じて第2期の取り組み課題を明らかにする

【現状の目次案】

No.	項目	内容	原稿頁数（予定）	担当
①	リーダーページ	橋本副学長からPJ2の活動について概要を説明	2～4	橋本
②	2-Aの活動紹介	ESG投資の解説、本学の取組みとねらい （*大学の長期的競争力の向上）	10程度	伊藤（宏） 原科学長・ 笹谷
③	2-Bの活動紹介	SDGs実現に向けた学生参加型の大学改善活動 （*SDGs指標の策定と継続的測定によるマネジメント）	15程度	斉藤・橋本 杉本・奥寺 安藤
④	2-Cの活動紹介	エシカル消費の活動の展開 （*消費活動の変化の重要性と活動の展開）	20程度	今井・滝澤
⑤	学生との対談	教員と学生メンバーによる対談	4～6	教員・ 学生メン バー



活動における課題

- SDGsに関連する学内の情報集約の必要性認識と方法の改善
- USRに関して、「ガバナンス・コンプライアンス・リスクマネジメント・アカウンタビリティ」「人権」「労働・教育環境」「公正ビジネス慣行・市場ルール」についての検討
⇒ 経営層のイニシアティブが必要
- エシカル消費に関する活動を、サステイナブルに実施するモデルの具体化
- 学生のモチベーションをキープしつつ、活動を推進する方法
- エシカル消費の意識を、卒業後も保ち続ける仕掛けの構築
- 教育（ESD, Education for Sustainable Development）の効果測定

今後の展開

- Positive Impact の指標・評価といった新しい研究へ
 - 投融資におけるPositive Impact評価指標の検討
 - TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）に基づく情報開示の調査研究
- 商大のUSR活動および統合報告書の質の向上
 - 研究活動成果を、商大の統合報告書作成に活用／「大学コンソーシアム市川」加盟大学にご提案？
 - THE Impact Rankingなど先進的の大学評価指標の見直し状況などを参照
- フェアトレード大学認定に取り組む

付録：USR指標案（1）

中核課題	マテリアリティ	KPI		他大学が回答／自己評価するための質問案 (※評価対象は、原則として直近の前年度とする)
		定量データ	定性データ	
研究教育	奨学金問題	大学独自の学生支援制度、社会的状況に応じた支援（ルーター・パソコン貸出、通信費、生活費）の周知度、応募数、参加者数	学生満足度	<ul style="list-style-type: none"> 学生の「学び」を支援するための大学独自の制度があるか（周知方法、実績も） 社会的状況に応じた学生支援制度があるか（周知方法、実績も）
	国際的人材育成（留学・語学研修）	ダブルディグリー、学生交流イベント、留学生受入人数、語学研修制度の周知度、応募数、参加者数	学生満足度	<ul style="list-style-type: none"> 国際的人材育成のため、支援制度があるか。 当該支援制度の利用人数
	SDGsに関する研究プロジェクト	プロジェクト数（活動期間、活動人数）	プロジェクト内容、成果（知的・物的）	<ul style="list-style-type: none"> 学内にSDGsを研究する組織（プロジェクト）があるか（プロジェクト数、活動期間、活動人数） 当該組織（プロジェクト）の役割は何か？ 学内・学外のSDGsの理解促進や浸透のために、活動しているか。
	教員や授業に関する改善、授業における重要課題	教員の多様性、ツールの多様性（平均受講者数）、（ST比）、（出席・課題提出率）、（Complete率）、	教員の満足度（ツール使いやすさ、サポート、授業のしやすさ）	<ul style="list-style-type: none"> 教員が授業運営しやすいように、また学生の理解度を高めるためのツールや取り組み
学生生活の改善（消費者課題）	適切な学習環境（オープンPC状況調査、提案）	（オンライン）授業数、種類（オンライン、AL、対面、ユニバーサル、受講方法の多様性）、	授業満足度（オンライン、リアル） Wifi繋がりのやすさ	<ul style="list-style-type: none"> 授業満足度（オンライン、リアル）と前年度比 IT環境（クラウド、学内LAN、オンライン講義用ツール）がどれくらい整備されているか
	適切な学生交流（傾向、理由調査）	学生交流イベント数 参加者数	学生満足度 イベント内容	<ul style="list-style-type: none"> （授業外）学生交流イベント数、形態（オンライン、リアル）、参加者数、課外活動満足度と前年度比
	キャンパス環境、施設などの改善（学食状況調査、提案）	学食座席数 図書館他施設利用回数・人数	学生満足度 利用目的	<ul style="list-style-type: none"> 施設のオンライン化状況（図書館他） 施設の利用者数（リアル、オンライン）と前年度比
	資格取得（みずほ会、その他資格の体制調査、提案）	資格講座数 認知度	学生満足度 資格内容	<ul style="list-style-type: none"> 対象資格数、資格講座数と形態（オンライン、リアル）、参加者数と前年度比、学生認知度
	キャリアサポート（希望に叶う就職支援体制の評価）	キャリアイベント数 就職率	学生満足度	<ul style="list-style-type: none"> キャリアイベント数と形態（オンライン、リアル）、参加者数と前年度比、学生満足度、就職率

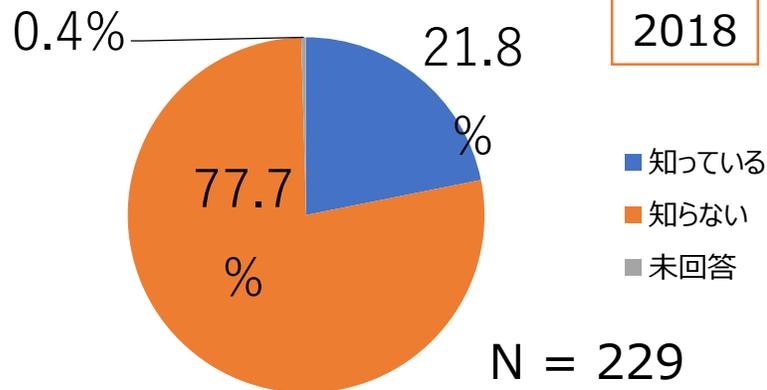
付録：USR指標案（2）

中核課題	マテリアリティ	KPI		他大学が回答／自己評価するための質問案 （※評価対象は、原則として直近の前年度とする）
		定量データ	定性データ	
地域社会との繋がり	施設開放（学生食堂・図書館など）	利用人数（延べ人数）	施設の利用目的	<ul style="list-style-type: none"> 開放施設利用人数（延べ人数）と前年度比
	学生による社会活動（ボランティア等）	ボランティアや活動型ALへの参加人数（延べ人数）	ボランティアや活動型ALの活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 学生が参画する社会活動（ボランティア等）への参加学生の人数（延べ人数）と前年度比 その活動内容はSDGsの17ゴールの内、どのゴールに貢献しているか。
	社会（学校・行政・企業）との協働（イベント共催・地元名物の共同開発など） 外部NPO/NGOからのインプット（専門家招聘など）	協働プロジェクト数	協働プロジェクトの内容	<ul style="list-style-type: none"> 行政・企業・NPO等との協働によるイベントやプロジェクト（オンライン/リアル）が何件あるか。 その内容はSDGsの17ゴールの内、どのゴールに貢献しているか。
	教育機会の提供（公開講座・出前授業など）	公開講座/イベント（オンライン/リアル）への参加者数（延べ人数）	講座/イベント（オンライン/リアル）の内容	<ul style="list-style-type: none"> 公開講座やリカレント教育（オンライン/リアル）への参加者数（延べ人数）と前年度比 それら講座内容はSDGsの17ゴールの内、どのゴールに貢献しているか。
環境問題への取り組み	ゴミのリサイクルの実施、分別回収（2016年度5万3千kgから減量）	廃棄量／リサイクル量	意識啓発の実施	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物の廃棄量／年（分別回収の有無やリサイクル量） キャンパスが複数個所の場合は、キャンパス毎や総計
	エネルギー（電気・ガス）の使用量の削減	使用量（の推移）	意識啓発の実施	<ul style="list-style-type: none"> 年間エネルギー使用量（電気、ガス、再エネ率）
	水の無駄使いの削減	使用量（の推移）	意識啓発の実施	<ul style="list-style-type: none"> 年間水使用量（上水や中水の使用状況、井戸・地下水を利用している場合は、その使用状況）
	教職員と学生の連携（環境情報の見える化、情報共有、意識の醸成）	連携の取組みの実施数 学生生活調査等での認知状況	掲示板やwebサイトでの公表内容	<ul style="list-style-type: none"> 教職員や学生が知る機会はあるか？（入学前・後） 実施している連携の取組みの内容は？

付録：瑞穂祭アンケートの結果抜粋（商大学生）

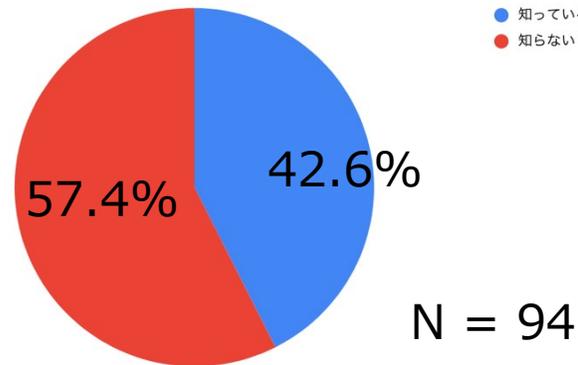
SDGsを知っていますか？

SDGsの認知度は向上



「6. SDGsを知っていますか？」のカウント数

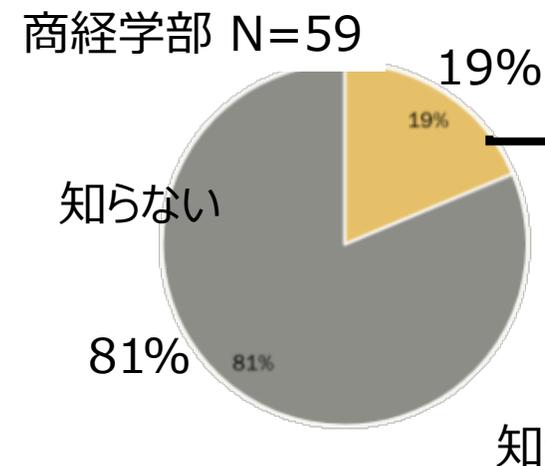
2019



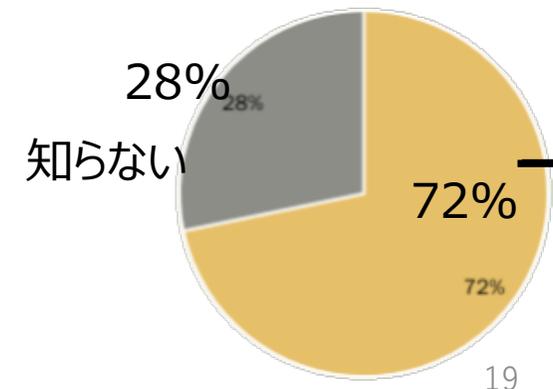
● 知っている
● 知らない

SDGsを知っていますか？

商経学部の認知度が低め

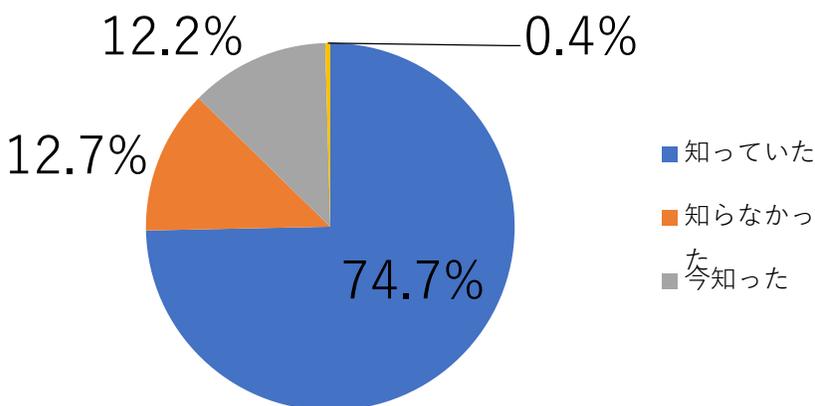


政策情報、サービス創造、人間社会学部 N=46

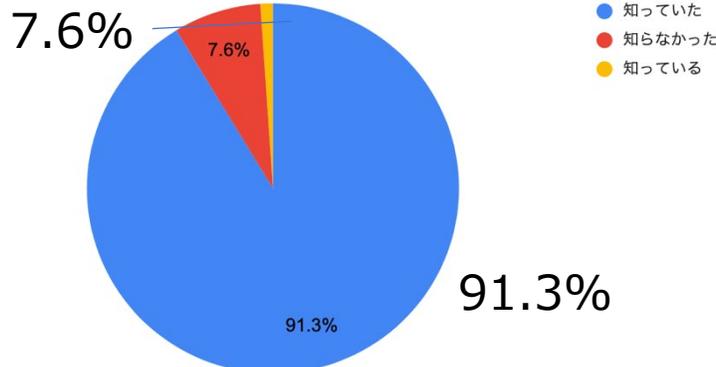


千葉商科大学が「自然エネルギー100%大学」を目指していることを知っていますか？

RE100大学の認知度はますます向上



「知っていることを知っていますか？」のカウント数



● 知っていた
● 知らなかった
● 知っている

Green Metric (インドネシア大学) 応募報告

Zoom ミーティング



Noriko Saito

jaime romero Sakarya Unive...

レコーディング

PARTICIPANTS PERFORMANCE

World: 98 Universities (10,7%) 10,000

World: 403 Universities (44,7%) 7,500

World: 411 Universities (45,1%) 5,000

Main Stage

参加者 (374)

参加者の検索

- Live YT
- L Lokupitiya
- L luciana.sacchetti
- L Luciano
- LA Luz A. Luna
- MB Maamar Bettayeb
- Mahnaz Gümrükçüoğlu Yiğit
- MA Mai Alsaffar
- Margarita M Jaramillo Wittsack
- María de la Luz Trasfi
- MR Maria Rosa Ronzoni

招待 ミュートを解除します 手を挙げる

ランキング結果（商大は314位/912大学）

<http://greenmetric.ui.ac.id/overall-rankings-2020/>

Overall Rankings 2020				満点					
Rank 2020	University	Country	Total Score	/1500	/2100	/1800	/1000	/1800	/1800
				Setting & Infrastructure	Energy & Climate Change	Waste	Water	Transportation	Education & Research
1	Wageningen University & Research	Netherland	9150	1200	1800	1800	1000	1550	1800
2	University of Oxford	United Kingdom	8875	1200	1600	1800	1000	1550	1725
3	Nottingham University	United Kingdom	8775	1300	1525	1800	1000	1425	1725
4	Nottingham Trent University	United Kingdom	8725	1200	1775	1800	700	1450	1800
5	University of California, Davis	USA	8725	1250	1575	1725	1000	1525	1650
314	Chiba University of Commerce	Japan	6075	325	1425	1425	425	1125	1350

学内の情報把握にかかる改善点

取り組みがある一方で情報開示に課題が残されている点：

- 年間予算に占める**サステナビリティ関連予算の抽出**（1.17）
（学長PJ以外の諸活動：経済研究所／地域連携センター／国際センター／個人研究等の活動・研究予算を明示する）
- 全科目に占める**サステナビリティ関連科目の抽出**（6.1）
（大学院科目についてもSDGsとの関係を申告頂く）
- 研究全体に占める**サステナビリティ関連研究業績の抽出**（6.7）
（個人研究報告書・CUC Portal研究業績欄にてサステナビリティ関連研究であることを申告頂く）

取り組み内容の向上に向けて

追加の取り組みが求められる点（=今回低スコアだったもの）：

- キャンパス内の緑地面積増
- サステナビリティ関連活動・研究への予算投入
- 紙・プラゴミの削減プログラム
- 使用済み水のリサイクルプログラム
- ZEV（Zero Emission Vehicles）導入
- 年次サステナビリティ報告書の発行、情報公開